

ワシントン大学短期英語プログラム-STEP B-

函館校 国際文化・協力専攻2年 前田美紅

1. 授業について

初日にオリエンテーション及び筆記と面接形式のクラス分けテストが行われました。テストはどちらも難しいものではなく、筆記は基本的な文法やリスニングを問われるようなもので、面接は自己紹介やこのプログラムで何を勉強したいかなど簡単な質問をされました。テストの結果に応じて三つのクラスに分けられ、翌日からはそのクラスで授業が行われます。授業は毎朝9時30分から12時30分までで学生の人数は各クラス15人程度でした。

私のクラスは、Speaking と Listening 中心に行われていました。クラス内は母国語禁止で使用できるのは英語のみです。授業の内容自体は全く難しいものではありません。英語特有の表現を学ぶ、ある Topic についてグループで意見を交える、映画『Sleepless in Seattle』を見て自国文化とアメリカ文化を比較する時間などが与えられました。また、自分の知らない英単語や表現をクラス内で紹介する課題やそれを基にした単語テストも行われました。

最終課題は、Topic を自由に決めて街の人々にインタビューをし、そこで得た結果をクラス内で発表するというものでした。最低3人にインタビューと言われましたが、私は Speaking の機会を得たかったのと、可能な限りデータ量が豊富で意味のあるプレゼンテーションをしたかったというもあり30人にインタビューしました。この最終課題で



<Green Lake でのインタビューにて>

は、ほとんどの人が質問内容のより詳しい情報をくれたり日本のことを聞いてきたり、とてもフレンドリーに応じてくれたためシアトルの人々の良さを知れるとてもいい機会になりました。もちろん Speaking や Listening の絶好の機会でもあります。

先に述べた単語紹介や最終課題のプレゼンテーションは当然原稿なしで発表を行います。実際には原稿を持っていても厳しく叱られることはないようですが、Speaking 練習のためにも使用しないのがよいかと私は思います。プレゼンテーションに限らず、クラス内では発言する機会が非常に多く与えられるので、積極的に発言し英語を使用しないとせっかくの Speaking の機会を逃してしまいます。

クラス活動としては座学の他に、Gate's Foundation や Burke Museum、Seattle Public Library などへも出かけ、シアトルが行っている取り組みや歴史も学びました。これらは座学とは違い、実際に赴いて見学したり説明を聞いたりできるためとても刺激的でした。

2. シアトルでの生活とワシントン大学

シアトルでの移動は基本的にバスを使用していました。ホームステイ先からワシントン大学まではバスでおよそ 40 分程度かかりました。日本とは違い、バスの中で両替をすることはできないので運賃はおつりなく準備するか ORCA カードや U-PASS のようなバスカードを使用しなければなりません。毎回おつりなく運賃を準備するのはとても大変なのでほとんどの学生はバスカードを使用していました。個人的にはチャージ式の ORCA カード(カード自体は\$5)がおすすめです。U-PASS は \$132 で 1 学期分乗り放題になりますが 3 週間のこのプログラムで使用するには少々高いように思います。ちなみに私は 3 週間の交通費が約 \$110 でした。



<大学内の韓国料理店にて>



<Grey's Anatomy で一部病院として使用されたシアトルの TV 局>



<Sleepless in Seattle の映画撮影でトム・ハンクスが座ったカウンター席>



<ホストファミリーとの外食>

ワシントン大学はとても大きく、大学内をバスが通っています。図書館はもちろんのことミュージアムやマーケット、レストラン、銀行、ホテルなどあらゆる施設が整っておりほとんど街のような感じです。授業終了後は、友人と一緒にレストランで昼食をとったり、大学内を散策したりしました。大学の建物はどれも美しく歩いているだけでも楽しかったです。

時間がある日にはダウンタウンに出かけてショッピングを楽しんだりシアトルに住む友人とランチを食べたりしました。また、毎週 2 回行われる Optional Tour にも参加してシアトルの主要な観光地を巡りました。このツアーでは近場の Bainbridge Island にも行きました。すべてに参加するとおおよそシアトルの主要な部分は網羅できると思います。私は映画やアメリカンドラマが大好きなのでシアトルを舞台としている『Grey's Anatomy』や『Sleepless in Seattle』のゆかりの地を訪れたりもしました。

ホームステイ先の家族は、共働きで娘と息子がいる 5 人家族。大きな犬が 1 匹と猫が 3 匹というとても賑やかな家族でした。そのほかに同じくホームステイをしている韓国人の学生もいました。毎日夕食の時間には、一緒にご飯を食べてお気に入りのクイズ番組を見ていました。息子の Jeremy とはお互い大好きなホラー映画を一緒に見て、映画について語りながら楽しい時間を過ごしました。

3.週末旅行

ワシントン大学の授業は基本的に月曜日から金曜日までなので週末は自由に過ごせました。私はその週末を利用し、カナダのヴィクトリアとワシントン州フォークスに行きました。

カナダのヴィクトリアへはシアトルから高速フェリーに乗って約3時間で行くことができます。英国調の穏やかで美しい街並みはシアトルとはまた違う良さがありました。ヴィクトリアではツアーバスを予約していたのでそれに乗ってダウンタウンやブッチャートガーデンをまわりました。日帰り旅行だったので、夕方4時にはヴィクトリアから船に乗るために出国手続きをしました。この時に、STEP がビザを必要とするプログラムではないことを証明するものが必要だったのであいにく私はそれをシアトルに置いてきてしまっていたので口頭で説明する必要がありました。もし、次回以降の参加者でカナダ旅行に行きたい方がいれば何か証明できるもの(できれば英語で書かれたもの)を用意していくことをおすすめします。



<とても上手な演奏でした！>



<ヴァンパイア専用の駐車場>

フォークスはワシントン州にあるとても小さなまちです。この地は、Stephenie Meyer の小説『Twilight』シリーズゆかりの地として一躍知られるようになりました。ヴァンパイアの痕跡を求めてこの地を訪問です。フォークスへはシアトルから Bainbridge Island を経由して向かいました。途中、クレセント湖やポートエンジェルズという近郊の街に立ち寄りました。フォークスにつくとあらゆるところに Twilight と書かれた看板がみられました。案内所の方は「こんな雨の多い田舎にヴァンパイアとオオカミ人間を求めて世界中から観光客がやってくるなんて想像もしていなかった。でも今日は天気がいいからヴァンパイアはきっと留守ね。」と気軽に話して下さいました。

4. 次回の参加者へ

このプログラムで英語力を向上させようと思うのなら注意が必要です。一つは、英語を勉強するため受講しないことです。自分が今まで勉強してきた英語を実際に現地で使用するために受講するのがいいと思います。文法や英単語をじっくり勉強する時間はありません。そのため、日本でどれだけ準備できるかが重要になります。もう一つは、現地での環境についてです。このプログラムは多くの日本人が受けていますから、いつでも日本語を話せる環境にあります。多くの学生がクラス外で日本語を使用しています。ですが3週間という短い期間ですから、現地で日本語を使用するのはもったいないと思います。日本人が多い中で、自分は常に英語で会話するくらいの意志が必要です。私は英語を使用していました。

ワシントン大学は素晴らしい大学ですし、アメリカ文化も学べますから十分に英語を勉強した上でぜひ受講してみたいです。きっと忘れられない経験になると思います。